

ArtDB の新システムへの移行と従来からの変更点（まとめ）

2020.1.21

★入れ替え作業と顧問の仕事

この度の職場のコンピュータ入れ替えに伴い、ArtDB とその入力に関するシステム全体の見直しを行いました。そこで、これまで使用していた ArtDB も新しいものに入れ替え、生徒美術展データ入力アプリも新しいものに入れ替えます。また、64bit 対応にするため、64bit 版の AccessDatabaseEngine のインストールも必要となります。この作業は今回の一度だけです。

これらは一部管理者権限で行う必要があることもあり、コンピュータ操作に長けた各学校のネットワーク担当者に支部から依頼をかけ、すべての作業をネットワーク担当者に行ってもらうようにしますので、顧問の先生方のご安心ください。

支部から配布する依頼文書をネットワーク担当者にお渡しください。あとはネットワーク担当者がうまくやってくれるはずです。先生方は支部より配布されたファイル群をネットワーク担当者に渡し、これまで使っていた ArtDB のある場所だけネットワーク担当者にお伝えください。

★新しい入力アプリと ArtDB の、従来からの変更点（まとめ）

システム全体が 64bit 対応になりました

- ・したがって、32bit マシンでは走りません。
- ・ AccessDatabaseEngine の 64bit 対応でしか動作しません。

ArtDB の構造が変わりました

- ・ テーブル「作品一覧」において、「立体」の列がなくなり、新たに以下の列が追加されました。
「サイズ」、「素材」
- ・ 「種類」を「種別」に変更しました。
- ・ 「立体」のチェックがなくなった代わりに「種別」の選択肢が変わり、以下の項目から選ぶことになりました。
「平面；デザイン（横置き）」
「平面；デザイン（縦置き）」
「平面；映像」
「平面；絵画（横置き）」
「平面；絵画（縦置き）」
「平面；工芸」

「平面：彫刻」
「平面：版画」
「立体：デザイン」
「立体：映像」
「立体：工芸」
「立体：彫刻」

- ・学校 ID が 3 桁になりました。
西三河生徒美術展の参加校の増加を見込んで、従来の 2 桁表示「01～99」を 3 桁表示「101～999」に変更しました。

入力アプリを開いたときに最初に現れるメッセージが変わりました

- ・「現在入力されている生徒数」とは、名前と学年の両方が入力されている生徒数です。
(従来は、名前が入っていれば学年が 0 でもカウントされていました)
- ・「現在入力されている作品数」とは、制作者 ID と種別とサイズの 3 つが入力されているものの数です。
(従来は、制作者 ID が入っていれば種類が未記入でもカウントされていました)

生徒氏名と学年の入力

- ・学年の列で訂正に Backspace キーが使えるようになりました。(従来は Delete キーのみ)
- ・入力のたびに次のことが行われます。
 - (ア)名前の前後のスペース(全角も半角も)が取り除かれる(名前の途中のスペースには影響しません)
 - (イ)名前を入力しないで学年だけを入力したものは、学年が 0 にリセットされる。したがって、上記も併せると、スペースだけでできている名前はからっぽになって学年も 0 になります。入力の順序は 名前 → 学年 です。学年 → 名前 とすると、学年が 0 にリセットされてしまいます。
- ・名前だけを入力し、学年を入力しない者が 1 人でもいたり、名前と学年がそろっている者が 1 人もいなかったりすると、次のことができません。また、入力の開始や保存前に警告が出ます。結構しつこく出ます。
 - (ア)作品一覧の入力
 - (イ)学年を増やし卒業生を消去
- ・生徒氏名一覧を Excel にも出力できるようになりました。
「ファイル」→「生徒氏名一覧の Excel 出力」とたどってください。

作品一覧の入力

- ・制作者 ID と種別とサイズが必須入力となりました。この3つがそろっていない作品が1つでもあると、保存前に警告が出ます。
- ・制作者 ID が1つだけの作品も右クリックメニューで制作者 ID のみ消去可能になりました。
（従来は、作品に関するすべてに情報が消去されていました。ただし、この状態のままでは誤入力と見なされます）
- ・作品一覧の印刷はなくし、Excel 出力のみとしました。
その際、エラー（制作者 ID、種別、サイズのどれかが欠けている）は赤字と黄色の網掛けで「Err」が出力されます。